

## インドネシアにおける家族介護者の鬱と支援策

研究分担者 柏木志保 筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野 研究員

### 研究要旨

目的：高齢者を介護する家族介護者は鬱病や負担を抱える傾向にある。介護にともなう鬱や負担により家族介護者は、介護の継続が難しい状況に陥ることもある。家族介護者の精神的な健康のバランスを保つことは、介護の質を確保するために必要である。本稿の目的は、インドネシアの中高年を在宅で介護する家族介護者の鬱に関連する要因を明らかにすることにより、家族介護者支援策を考察することにある。

手法：本稿では、2007年に米国のシンクタンクRAND (Research and Development)により実施されたインドネシアの家族生活調査 (Indonesia Family Life Survey, IFLS) を使用して、40歳以上の中高年を介護する家族介護者1,569名を分析した。IFLSは、鬱のスケールとしてThe Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) の短縮版を用いている。本研究では先行研究を参照にして10点以上を鬱群、9点以下を非鬱群とした。家族介護者の鬱を従属変数、家族介護者の鬱に関連する要因を独立変数として、単変量解析を行った。そのうち統計的に有意な( $p < 0.2$ )な変数を選出し、多重共線性がないことを確認した後、家族介護者の鬱を従属変数とし、多重ロジスティック回帰分析を実施した。

結果：家族介護者の53.32%が女性家族介護者であった。8.0%がうつ群であった。多変量解析の結果、うつ群と有意な正の関連を示したのは、都市部に在住、一人当たりの家計支出が高い世帯、主観的健康感が低く、疾病や痛む箇所が多い家族介護者である。一方、負の関連があった要因は、家族介護者の年齢が低いこと、仕事を有していない家族介護者であった。

結論：インドネシアの高齢者を支援するための現行の政策は、低所得層を対象とするものである。しかし、われわれの研究の成果は、都市部に住む家族の介護者、かつ月々の支出が多い家族介護者が鬱であることが明らかとなった。貧困層を支援するプログラムに加えて、中・上所得の人々のために、支援プログラムやサービスを提供することがインドネシアの家族介護者のうつ病を改善するのに役立つことが示唆される。

### A. 研究目的

家族介護者は、「隠れた患者」と表現されることがある。なぜなら、家族介護者は介護のための時間を費やす必要があるため、十分や診療やカウンセリングを受けることができないためである。その結果として、体調や心の状態が悪くなることもある。高齢者を介護する介護者は、鬱やストレスを抱える傾向が高い。最悪の場合、介護者の

鬱やストレスにより、介護の中断や高齢者への暴力に発展するケースもある。

家族介護者の鬱やストレスに関する研究は、主に先進国において研究が行われているが、途上国を対象とした研究は稀である。そこで、本研究は、高齢化人口が急激に増加するインドネシアに焦点をあて、高齢者を介護する家族介護者の鬱と関連のある要因を明らかにすることを目的とする。

## B. 研究方法

本研究は、米国のシンクタンク (Research and Development) により実施された Indonesia Family Life Survey 4 (IFLS 4) を用いて分析を行った。IFLS は、12000 世帯、30000 万人のインドネシア人を対象とした縦断研究である。IFLS 4 では、初めてメンタルヘルスが質問紙に追加された。

IFLS 4 では、メンタルヘルスを測るスケールとして CES-D の短縮版が使用された。先行研究によると 10 点以上が鬱群であることが明らかである。そこで、本稿では、10 点以上を鬱群、9 点以下を非鬱群と分類した。

また、家族介護者の鬱に関する先行研究より、鬱に関連する要因を選出した。これらの要因と類似した項目を IFLS4 から選出した。

単変量解析ではカイ二乗と T テストを行い、統計的に有意 ( $p < 0.2$ ) である変数を選出した。家族介護者の鬱を従属変数、その関連要因を独立変数として多変量解析を行った。

## C. 研究結果

家族介護者の 53.92 % が女性であった。鬱群は 8.09 % であった。多変量解析の結果、家族介護者の鬱と関連のあった要因は、家族介護者の年齢、居住エリア、一か月の世帯出、仕事、主観的健康感、疾患数、及び体の痛みを感じない箇所の数であった。

## D. 考察

高齢者を介護する家族介護者の鬱について、従来の研究ではインドネシアを対象とした研究がないので、本稿の調査結果を他の研究と比較することは難しい。しかしながら、CES-D 短縮版を用いた研究は台湾を対象としたものがある。この分析では、40% の家族介護者が鬱群に分類された。また、短縮版ではないが、CES-D20 を用

いた研究では、認知症高齢者を介護したイランの分析がある。ここでは、40% 以上の家族介護者が鬱群に分類される。先進国を対象とした研究では、24.8% から 40% の家族介護者が鬱群に分類されている。先行研究と比較すると、本稿の鬱に分類される割合が極めて低い。しかし、先行研究では認知症の高齢者を介護する家族介護者の鬱であるのに対し、本稿では介護を必要とする高齢者の家族介護者の鬱を測定しているので、安易にこれらの結果を比較考察することは難しいと考えられる。この点については、インドネシアにおけるさらなる調査が必要になると考えられる。

本稿では年が若い家族介護者のリスクが高いことが明らかとなった。年齢が若い家族介護者は、仕事、子供の世話、家事、高齢者の介護など数多くの役割を担っている。年齢が高い高齢者は、介護のための資源やネットワークをつくる時間を有している。また、高齢の介護者は、過去に自分の親もしくは配偶者の親などの介護歴を有するケースもある。このような経験があることにより、こころのバランスを維持することができているのかもしれない。

本研究では、都市に住む家族介護者に鬱のリスクが高かった。都市におけるストレスフルな生活環境が、家族介護者の鬱に影響を与えている可能性が高い。

本稿では、一か月の世帯支出が高い高齢者に鬱のリスクがあった。インドネシア人全般のメンタルヘルスを研究した成果では、本稿と逆の結果が報告されていた。これは対象者の相違から生じる結果と推測することができる。その先行研究では、14 歳以上のインドネシア人を対象としているのに対し、本稿の対象者は 40 歳以上である。

本稿では仕事に従事していない家族介護者に鬱のリスクがあった。本研究では、介護者の性別、結婚の有無、日々の生活についてさらに分析を進めた結果、32% の家

族介護者が仕事をしていない女性の既婚者であった。仕事をしていない既婚の女性介護者の鬱のリスクが高いことは、先行研究と同様の結果である。

また、主観的健康感および疾病の数、痛みの数については、先行研究と同様の結果であった。

#### E. 結論

51.96%の鬱の家族介護者が都市部に在住し、これらの介護者が中・高所得であった。これらの結果から、インドネシアでは都市部に在住し、所得が高い家族介護者の鬱のリスクが高いことが明らかである。インドネシアの現在の高齢者福祉は、貧しい高齢者を対象とした施策である。都市部に在住し、所得が高い家族介護者への支援やサービスを展開することが、将来的にインドネシアの家族介護者の鬱を軽減させるために必要になると考えられる。

本稿の限界は次の通りである。まず、横断データを用いているため、因果関係について言及することが不可能であること。またデータからは、高齢者の認知障害について知ることができなかったため、認知力が低下する家族介護者の鬱を明らかにすることができなかった点である。さらに、先行研究では、鬱とサービス利用について言及されているが、本稿では欠損値が多かったため、サービス利用の効果を分析することができなかった。

#### 【参考文献】

Arai, Y., Kumamoto, K., Mizuno, Y., & Washio M. (2014). Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the long term care insurance program: a large-scale population-based study in Japan. *Aging & mental health*, 8(1), 81-91

Arai, Y., Sugiura, M., Washio, M., Miura, H., & Kudo K. (2001). Caregiver

depression predicts early discontinuation of care for disabled elderly at home. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 55, 379-382

Asia Development Bank, (2010). The rise of Asia's middle class. in *Key indicator for Asia and the Pacific 2010*, 3-57

Barnes, C., Given, B., & Given C. (1992). Caregivers of elderly relatives: spouses and adult children. *Health & social work*, 17(4), 282-289

Bloom, D., Canning, D., & Finlay J. (2010). *Population aging and economic growth in Asia*. University of Chicago Press, 61-89

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

Shiho Kashiwagi, Nanako Tamiya, Felipe Sandoval: Factors associated with depression amongst family caregivers involved in care for community-dwelling persons of middle age and older: based on data from Indonesia family life survey, *Public Policy and Administration Research* 6(5), pp.24-32.

##### 2. 学会発表

なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし